

---

A

エックス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

A

### 【Zマーク】

Z2543F

### 【作者名】 エックス

### 【あらすじ】

彼は冷たい。 いつでも。 冷たいというより私に興味がないのかも。  
でも彼が好き。 大好き。 側にいるだけで幸せ……だと思つ。

彼は冷たい。いつでも。冷たいというより、どうでもいいのかもしない。私のことが。それでも私は彼が好き。大好き。側にいるだけで幸せ……だと思う。

彼 裕一郎を初めて見たのは入学式。偶然見かけただけであったが、たくさん的人がいたのに、なぜだか裕一郎だけキラキラ光つて見えた。その美しい横顔がキラキラキラキラ……。

それから私はずっと彼を見ていた。いや、彼を見ていたのは私だけではない。女の子は誰もが彼を見ていた。無理もない。スラリと高い身長、白くてスベスベの肌、少し長めの髪、モデルのような顔……彼は本当にキレイ。私にはいつでもキラキラ光つて見える。

彼に触りたい。声が聞きたい。視界に入りたい。……私のものにしたい。

もう我慢の限界！少しでも彼の視界に入れるなら……と玉砕覚悟で告白した。

「大好きです！付き合ってください！」

「…………イヤダ……。」

わかつっていたが悲しかつた。でも告白している少しの間だけ、彼と目が合い、視界に入れるのが嬉しくて、もうそれから毎日のように何度も何度も何度も告白を続けた。付き合えるなんて思つてない。ただ声が聞けて、視界入れるのが嬉しかつた。

「あんたしつこいね。ホント。うざい。」

何十回目かの告白のあと裕一郎が言った。普段寡黙で、周囲に無関心で、クールな彼はがこんなにしゃべった所を初めて聞いたから驚いた。と、同時に“うざい”と言わたのはやはりショックで少し泣きそうになつた。

「俺あんたのこと好きじゃないけど、まあ…いいよ。」

「…くつ？…………あの…………いい”って……？」

「付き合つてもいいよ。」

突然の意外すぎる言葉に腰を抜かしそうになつた。裕一郎は無表情のまま私を見ていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2543f/>

---

A

2010年10月11日02時28分発行